

<p>(科目名) 水圏生物学入門 (英 訳) Introduction to the Aquatic Biology</p>	<p>( 群 ) B群 ( 単位数 ) 2単位 ( 開講期 ) 前期 ( 週コマ数 ) 1コマ ( 授業形態 ) 講義 ( 対象回生 ) 全回生 ( 対象学生 ) 全学向 ( 曜時限 ) 木4</p>																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>(所属部局)</th> <th>(職名)</th> <th>(氏名)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フィールド科学教育研究センター</td> <td>教授</td> <td>山下 洋</td> </tr> <tr> <td></td> <td>非常勤講師</td> <td>白山 義久</td> </tr> <tr> <td>生態学研究センター</td> <td>准教授</td> <td>奥田 昇</td> </tr> <tr> <td>地球環境学堂</td> <td>教授</td> <td>加藤 真</td> </tr> <tr> <td>フィールド科学教育研究センター</td> <td>准教授</td> <td>久保田 信</td> </tr> <tr> <td>フィールド科学教育研究センター</td> <td>准教授</td> <td>益田 玲爾</td> </tr> <tr> <td>フィールド科学教育研究センター</td> <td>准教授</td> <td>田川 正朋</td> </tr> <tr> <td>フィールド科学教育研究センター</td> <td>講師</td> <td>宮崎 勝己</td> </tr> <tr> <td>フィールド科学教育研究センター</td> <td>助教</td> <td>上野 正博</td> </tr> <tr> <td>フィールド科学教育研究センター</td> <td>助教</td> <td>大和 茂之</td> </tr> <tr> <td>農学研究科</td> <td>助教</td> <td>鰺坂 哲朗</td> </tr> </tbody> </table>	(所属部局)	(職名)	(氏名)	フィールド科学教育研究センター	教授	山下 洋		非常勤講師	白山 義久	生態学研究センター	准教授	奥田 昇	地球環境学堂	教授	加藤 真	フィールド科学教育研究センター	准教授	久保田 信	フィールド科学教育研究センター	准教授	益田 玲爾	フィールド科学教育研究センター	准教授	田川 正朋	フィールド科学教育研究センター	講師	宮崎 勝己	フィールド科学教育研究センター	助教	上野 正博	フィールド科学教育研究センター	助教	大和 茂之	農学研究科	助教	鰺坂 哲朗	
(所属部局)	(職名)	(氏名)																																			
フィールド科学教育研究センター	教授	山下 洋																																			
	非常勤講師	白山 義久																																			
生態学研究センター	准教授	奥田 昇																																			
地球環境学堂	教授	加藤 真																																			
フィールド科学教育研究センター	准教授	久保田 信																																			
フィールド科学教育研究センター	准教授	益田 玲爾																																			
フィールド科学教育研究センター	准教授	田川 正朋																																			
フィールド科学教育研究センター	講師	宮崎 勝己																																			
フィールド科学教育研究センター	助教	上野 正博																																			
フィールド科学教育研究センター	助教	大和 茂之																																			
農学研究科	助教	鰺坂 哲朗																																			
<p>(授業の概要・目的)</p> <p>「水の惑星」地球は、現在のところ太陽系で唯一、生物の存在が確認されている星であるが、その地球の生物は、地球の水の97%を占める海に起源する。この講義では、地球の水の世界(水圏=海洋+陸水)に生息する様々な生き物たちの特徴や営みについて、フィールド科学教育研究センターのスタッフを中心とした各分野の専門家が、様々な観点から解説・論究を行う。</p>																																					
<p>(授業計画と内容)</p> <p>第1回目のオリエンテーションの後、各担当教員によるリレー講義を行い、最終回として全体のまとめを行う。</p> <p>昨年度にほぼ準じて、以下のようなテーマで講義を行う予定である。各講義の正式な題名、順番、担当者名については、オリエンテーションの際に発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・渚の自然史</li> <li>・深海の生物学</li> <li>・水辺のつながりが育む生物多様性</li> <li>・日本海と太平洋</li> <li>・海産生物の生き残り機構</li> <li>・魚の初期生活史</li> <li>・潜水調査の可能性と限界</li> <li>・磯焼けと藻場造成</li> <li>・フジツボ類における性表現の進化</li> <li>・クラゲの生物学</li> <li>・ウミグモの生物学</li> </ul>																																					
<p style="text-align: right;">----- 水圏生物学入門(2)へ続く -----</p>																																					

## 水圏生物学入門(2)

(成績評価の方法・基準)

出席とレポート。(出席確認は厳密に行う)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

「水圏」という言葉を共通のキーワードとして、そこに住む多種多様な生き物たちの各々の生き様や、それを理解するための様々なアプローチを知ること、学問のおもしろさや奥深さを味わい、また学問の可能性や限界といったことにも思いをはせて欲しい。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

(分類) 個体・集団の生物学

(履修要件)

高校で生物を履修している必要は必ずしもないが、「生物」そのものに関心・興味を持つ学生が受講していただきたい。

(教科書)

使用しない

(参考書等)

講義全体としては特にないが、担当者が個別に提示する場合がある。

(関連URL)

<http://fserc.kais.kyoto-u.ac.jp/>